

第8回コンパクトなまちづくり専門小委員会 議事概要

日 時	平成 29 年 5 月 10 日（水）10 時 00 分～11 時 20 分		
場 所	北九州市役所 5 階 プレゼンルーム		
出席者		氏 名	役 職 名
	委 員	白木 裕子	（一社）日本介護支援専門員協会 理事
	委 員	中村 雄美子	NPO 法人北九州子育て・親育ちエンパワメントセンター Bee 代表理事
	委 員	寺町 賢一	九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授
	委 員	◎柳井 雅人	北九州市立大学 経済学部 教授
	臨時委員	木内 望	国土交通省 国土技術政策総合研究所 都市研究部 都市計画研究室長
	臨時委員	志賀 勉	九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門計画環境系 准教授
	事 務 局	建築都市局（都市計画課）	
議事内容	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>（1）都市計画マスタープラン（第1部～第4部）について</p> <p>（2）都市計画マスタープラン（第5部・地域別構想）について</p> <p>（3）都市計画マスタープラン（第6部・今後の取り組み）について</p> <p>（4）今後のスケジュールについて</p> <p>3 閉会</p>		

◎：委員長

第8回コンパクトなまちづくり専門小委員会の主な意見

1. 都市計画マスタープラン（第1部～第4部）について

- P2の左図に人口減に対する市の考え方を加えているので、図のタイトルを「社人研の将来人口の見通し」から別のものに変更するべきではないか。
- D I Dの密度を将来的に設定するとか、人口のスピードを緩めるとか、数値目標を設けるのか。
- P2に「街なか」の定義があるが、ここが一番下の「高齢者や子育て中の人々にとってより大きな利点となります。」というところは、この人たちを含むみんなにとって便利な街ではないのか。
- P3の将来都市構造の図で例えば、小倉南 I C 周辺や新門司 I C などの周辺は、自然田園ゾーンになっているのだが、文言で書いてあることと対応が取れているか。
- 立地適正化計画との関係、あるいは公共交通網形成計画との関係については、どこでどのように位置づけられているのか。一連の流れがあるので、少し背景的なところを触れておいたほうが良いのではないか。

2. 都市計画マスタープラン（第5部・地域別構想）について

- 戸畑区のところで、「高台地区における生活交通手段について検討を進めます」とコメントが書いてあるのだが、その2つ下に「斜面地の住宅については、居住のあり方について検討を進める」と書いてある。一見すると矛盾しているようにも見える。また、戸畑区だけ「高台地区の交通手段の検討を進める」という文言が入っていることに関して説明ができるのか。
- 八幡西区の矢印、左から上に上がっている印は、わかりやすい骨格道路網の形成と書いてあるが、どこに向かうのかとか、黒崎副都心から斜め左に伸びているところ（主に緑線）、これは何に対応するのかとか、どこに向かっているのかとか、小さなスケールでは即地的にわかるようにした方がいい。
- 各区の主要幹線軸、幹線軸、わかりやすい骨格道路網の形成、このあたりの説明はきちんとされていたか。全体の都市構造のところの分類と対応しているのか。
- 本編 p 128 の安心安全なまちづくりに関する方針の中で、「福祉のシンボル拠点として高齢者や障害のある人もいきいきと暮らせ、子育てしやすいまちづくりを進めま

す。」と記述があるのは、戸畑区に障害のある人が集まらないといけないような書きぶりになっていて、誤解を生むのかなと思う。

3. 都市計画マスタープラン（第6部・今後の取り組み）について

- 「斜面地住宅の居住のあり方検討」というのがあるが、ここだけ「検討」というのが気になる。また、居住のあり方とともに人口減少で生じる空き家や空き地をどうするか、利用というよりも保全というイメージ。土地利用の問題についても、十分検討しなければならないと思う。
- 「工業・港湾機能の維持・増進」とあるが、産業とインフラをいっしょにつけているのは、違和感がある。港湾だけ取り上げて、空港は取り上げないのはなぜか。インターチェンジの項目と工業・港湾のところの項目は、まだ整理できる余地があるのではないか。